



かけはし

遠からずダム湖にしづむ

山あひの村訪へば人みな優し

賀祥山禅林寺 第四十世

山中 律雄



鳥海町百宅の人々と交流を続け写真を撮ってきた三浦繁忠さん（左）

法体の滝や豪雪地帯の暮らしぶりに魅せられて鳥海町百宅に約60年に渡り撮影に通り続けてきた由利本荘市前郷の写真家・三浦繁忠さん（82歳）。長く懸案となっていた鳥海ダム建設がいよいよ着手されると聞き「今あるものを残しておきたい」という思いに駆られたといいます。

撮りためた写真のうち142点を「郷里の話 間もなく鳥海ダム湖に沈む集落『百宅』」として今年1月に写真展を開催しました。テレビや新聞でも紹介され、3日間の開催中に1,600人以上の盛況ぶり。小中学校併設校の閉校記念行事の写真などもあり、集落を離れた人たちも多く訪れました。

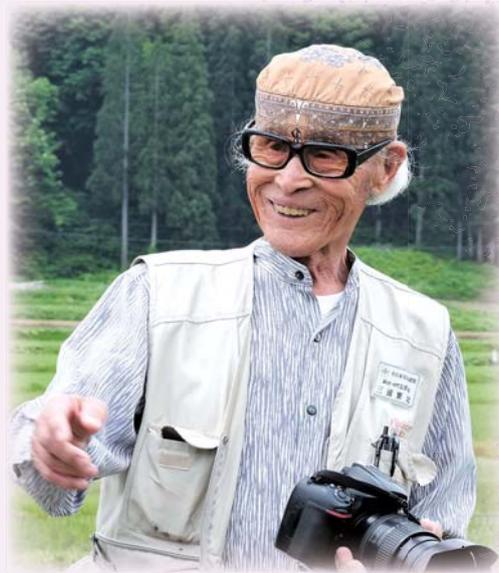
繁忠さんは撮影前に必ず声を掛け信頼関係を築いてから撮影に入ります。「百宅に訪れるカメラマンの中にはマナーの悪い人もいたらしく撮影を拒む人もいました。心を開いてもらえようになるまで時間はかかりましたが、今では親戚のようなお付き合いです」

中学生の時、友人の影響で始めた写真家人生。そこには様々なドラマが生まれました。

（次ページへ）

いきいき人生

第2回



本名・三浦繁忠^{しげただ}。由利本荘市前郷在住。農業の傍ら写真を撮り歩く写真家。「はんちゅう」は写真家としての名前。ある写真コンテストの表彰式で巨匠から「はんちゅう」と音読みされたことをきっかけに自ら「はんちゅう」と名乗るようになったそうだ。

繁忠^{はんちゅう}さんが3人の有志と「全日本写真連盟ゆり支部」を発足したのは平成23年3月11日・東日本大震災の日でした。以来、支部写真展のたびに「一緒に写真をやりませんか」と声を掛け、現在の会員数は30名を超える。組織の活性化は他支部がつけやむほど。その源泉となっている

のは繁忠さんの包容力と細やかな配慮ではないでしょうか。



『百宅』写真展作品より 百宅の雪は屋根まで続く（撮影：三浦繁忠）

「月に一度の例会には各自が写真を持ち寄りま
す。風景の好きな人やスナップの得意な人など
様々です。私は同じ写真愛好家の立場で共感し
たことを伝えます。時には『こうやったらもっ
とよくなるのでは』とアドバイスすることもあ
ります。写真はひとりでもできる趣味ですが、
グループで楽しさを分かち合うことも素晴らしい
ことです。会員同士が切磋琢磨し、今では各
種コンテストの入賞者を多く輩出しています」

繁忠さんの人となりをご紹介します。
「父は元海軍大尉でしたが負傷し静養中に終戦
を迎えました。それからはふるさとに戻り山を
開墾して農業を営みました。土地や建物を譲っ
てもらったとたくさんのお世話になりました。
父の口癖『人の助けが必要な時は助けても
らえるようにしなさい。人に尽くせる時は尽
せるようにしなさい』を教訓にしています」

また、「わからないことをわからないままに
しない」性格だといいます。わからないことが
あれば書籍を繙^{ひもと}いたり、先輩を訪ね、ご指導い
ただき、理解して即実践するそうです。

「それは仕事であっても写真であっても同じで
す。撮影地に行くとな有名な写真家とご一緒する
ことがよくあります。こうした時、たいていの
人は遠慮しがちですが、私は、勉強になる。こ
れチャンス」と声を掛けさせていただきます。
巨匠と呼ばれる写真家はどなたも丁寧に教えて
くださるものです。時にはお弟子さんから「先
生そこまで教えて大丈夫ですか」と心配される
ほどです」



研究心が芽生えたエピソード。「子供の頃、ヤギの乳を搾り瓶に詰めて配達することが私の役目でした。苦情があったわけではないのですが、臭いのする草を食べさせると乳に臭いが残ることに気づきました。いろいろ餌を変えてみて豆や葛の葉を乾燥させて食べさせたらよいことがわかりました」

さらに「早春野菜の『ひろっこ』を正月に出荷できるのではないかと考え、3年間、産地を視察するなど試行錯誤の末、成功することができました。このことは数回、新聞で紹介していただきました。

この話題を聞きつけたフジテレビの『いつのジーン』の制作会社から取材の申し込みがあり、働く爺ちゃん婆ちゃんを紹介するコーナーで全国放送されました。

ひろっこの収穫や調整作業をしながらレポートからあれこれ聞かれましたが、妻との馴れ初めが話題となり、思わず妻が作業場の隅を指さし『この馬櫓に乗って来たんだ』と説明する一幕もありました。不思議なもので取材を受けた2月25日は私たちの結婚記念日でした」



「人との出会いは一生に一度の出会いだと思って誠意をつくし、接してきました。そのことによって新たな出会いが生まれます。人生は不思議の連続ですが、行動しなければこうした出会いは生まれなかったでしょう。」

出会いに感謝です。『百宅』の写真展はゆる支部の会員の協力なしには実現しませんでした。また、百宅で偶然一緒になった『秋田・ダムに消えた村』の編集者・佐藤晃之輔氏に写真展のことを話したところNHKで紹介していただくことができました。その後、民放各社や新聞各社からも取材を受けることになり、お陰様で多く



『百宅』写真展作品より百宅の閉校式での一コマ（撮影：三浦繁忠）

の方々に写真を見ていただくことができました。様々な出会いを大切にし、写真家人生をこれから楽しんでまいりたいと思います」

由利本荘市前郷字前郷112
連絡先 ☎090-4554-0839

全日本写真連盟ゆり支部 会長
例会 毎月第3木曜日午後6時30分

・カターレ研修室
※会員募集中・初心者大歓迎

（取材・撮影 佐藤正人）



『百宅』写真展作品より 籠の販売も収入源（撮影：三浦繁忠）

チヨウウクライロ舞



タイシトンサッサと唱えて舞う九舎の舞



陵王・納曾利の面



男児6人がササラと腰太鼓で舞う花笠舞。
「チヨウクライロー」のことはをくり返す。



なぎなたで四方のしめ縄を切って舞う荒金の舞



おきな おうな
翁と媪の面をつけて舞う祖父祖母の舞



男児4人が鉢巻姿で刀をもって舞う太平楽の舞

小滝金峰神社に伝わるチヨウウクライロ舞は九舎の舞・荒金の舞・小児の舞・太平楽の舞・祖父祖母の舞・瓊矛の舞・閻浮の舞の7曲からなり「タイシトンサッサ」、「チヨウウクライロー」など節のついた言葉に合わせて舞います。陵王や納曾利の恐ろしい面をつけた舞や6人の児童が舞った花笠舞などがあります。

社伝によればチヨウウクライロの語源は「長久生容」であるとし、「長く久しく生きる容」の意味であるとしています。すが、語源には諸説があるようです。また、延命長寿のお祭りなのになぜ陵王・納曾利の戦いの舞いを舞うのかなど歴史家の間では謎の多いお祭りといわれています。

参考…「チヨウウクライロ・古代出羽国の謎のことば」長瀬一男・著

JAまつり協賛
笑顔の肖像撮影

日時

9月1日(土) 10時より

場所

あきた総合家畜市場
JAゆり葬祭センターブース

笑顔の肖像写真を残しませんか。撮影は無料。後日、2L判にてお届けします。どなた様もお気軽ににお立ち寄りください。

なお、みどりの会会員限定で
ご自宅にお伺いし
ての撮影も行っ
ております。



詳しくは担当・佐藤正人
090-4880-1097
までご連絡ください。



ご案内



人形供養祭

日時

9月16日(日) 9時受付

場所

虹のホールゆり

参加無料

供養を希望する人形・ぬいぐるみ
をご持参ください。(ガラスケース
など不燃物は除きます) 供養祭は11
時30分より。
お楽しみ抽選会もございますので
ご家族、ご友人などお誘い合わせの
上、ご来場ください。

**終活セミナーの
出張開催**

随時受付

老人クラブや各種グループか
らのご依頼により終活セミナー
を開催しております。

終活は元気なうちだからこそ
できることです。エンディング
ノートを使って、大切なご家族
へメッセージを残しましょう。



虹のホール（会館）葬なら 心にゆとりが生まれます。

会場づくりのため家中の
かたづけ、大掃除が必要。



会館葬
なら

参列者を迎えるだけの、
全ての設備が備わって
います。

ご近所の奥さんたちの手
助けを借りる必要がある。



会館葬
なら

私たちスタッフが細やか
かにサポートいたします。

ホール ご利用の ご案内

実際に自宅葬を
行ったご遺族に
聞きました。

家中の暖房、冷房が大きな
悩み。



会館葬
なら

会館葬なら全館冷・暖
房完備。

参列者の駐車場の確保、
車の誘導等が必要。



会館葬
なら

駐車場を完備。車の誘
導の心配も不要です。

参列者はもちろん、お手
伝いの皆さまへのお茶・
食事也大変。



会館葬
なら

当館でお手伝いいたし
ます。手助けの方たち
の負担を軽くします。

自宅葬だと
こんな
ご負担が...

手助けをしてもらった方々
へのお礼やお返しが必要。



会館葬
なら

ご近所の手助けをいた
だかなくてもよいので
気遣いがいりません。

葬儀の後、日常生活への
転換が大変。



会館葬
なら

日常生活への支障をき
たしません。

★ご葬儀について、
ご相談承ります。

お客様の声



親戚の葬儀の手伝いには良く行っていたが、いざ自分の立場になると何から何まで不安になり、とても心配だったが、担当者の方から祭壇の飾り付けや寺院様への対応など、とてもわかりやすい説明を受け、とても心強く感じました。おかげ様で滞りなく葬儀を行う事が出来ました。ありがとうございました。

〈K様〉

虹のホールゆりに安置していただき、家族まで長期にわたりお世話になり本当にありがとうございました。とても便利で親切にしていたさ助かりました。

〈S様〉

丁寧な葬儀ありがとうございました。悪天候でご難儀かけました。スタッフ皆様のお仕事、ご苦労様です。大変なお仕事ですね。

〈S様〉

JA葬祭みどりの会 会員募集中

入会金 10,000円で『終身会員』となり、ご家族（同居）どなた様でも特典をご利用いただけます。

事前相談 承ります

葬儀についての不安を解消いたします。お気軽にご相談ください。

短歌会員 募集中

(かけはし短歌会)

ほとんどの方が初心者からの入会です。最高の先生のもとで和気あいあいと勉強しています。興味のある方、ご連絡お待ちしております。

編集 後記



米国のロチェスター工科大学の研究によれば、「妻を亡くした男性は平均よりも早死にする可能性が30%高い」という。「男性の場合、物理的かつ精神的に世話をしてくれていた人を失うと、その喪失が健康に直接影響を与える」とのこと。

妻が元気なうちに食事や洗濯、掃除を身につけておかなければなさそう。また、話相手のいなくなることもとても辛いという。

認知症予防として、3つ以上のコミュニティ（町内会や趣味の集まりなど）に入ると良いといわれている。できれば同世代よりも10歳以上歳の離れた若い人との交流は精神的な若さの保持に有効だ。

いきいき人生で紹介した繁忠さんのように写真を通じて様々な人と関わりを持つことは心身両面にわたり充実した人生といえよう。

「わからないことをわからないままにしない」行動力を見習いたい。



(株)ジェイエイゆり葬祭センター
本店 / 〒015-0852 由利本荘市一番堰200-1
0120-2468-08
☎ 27-1718 FAX 27-1715
メールアドレス: jayurisousai@clock.ocn.ne.jp

JA葬祭 虹のホールゆり
由利本荘市川口字八幡前41-1
☎ 23-7716 FAX 23-7717

JA葬祭 虹のホールしらゆき
にかほ市三森字三嶽森41-1
☎ 62-8171 FAX 62-8172

年中無休・24時間受付